

■高浜地区の復興パターン案について

被害の状況	<ul style="list-style-type: none"> 防潮堤の未整備区間から多量の浸水があり、市街地全体が浸水した。 浸水面積は42.0haにわたり、浸水高はTP+3.4~15.0mとなり、最大浸水深が14mに達した。 浸水区域内の建物の34.7%が流失または撤去となる被害を受け、高浜小学校の校庭も浸水した。
復興まちづくりの考え方	<ul style="list-style-type: none"> 比較的頻度の高い津波^{※1}に対しては、防潮堤等のハード整備により防ぎ、今後、起こりえる最大クラスの津波^{※2}に対しては、ハード整備とソフト対策を組み合わせた多重防災型まちづくりを行う。 住宅地は、予想浸水深^{※3}の大きい区域を高台等への移転による確保を検討するとともに、小さい区域は、予想される建物被害の状況に応じ現地再建及び建物の構造規制を組み合わせる。 非可住地であっても、安全に避難できるように避難路の整備や津波避難ビル等の整備を行う。

案A：2線堤兼用道路を整備し、それより海側を非可住地、山側を可住地とする

八木沢方面、金浜方面へ抜ける高台部分での避難道路の整備

避難場所や避難路を検証する

防潮堤の新設

公園

防潮堤の嵩上げ

宮古湾

2線堤兼用道路整備

道路整備

凡例

- 非可住地
- 可住地
- 移転候補地
- 避難場所 (代表的な箇所のみ表記)
- 津波避難ビル等
- 防潮堤

高浜小学校

0 100 200 400 600 800 1000m

ア イ

案Aの断面イメージ

商業施設、工場、緑地など

住宅 市道 道路嵩上げ 住宅 国道 防潮堤

案B：市道より海側を構造規制とし被害を抑制することで現地での再建を可能とする

八木沢方面、金浜方面へ抜ける高台部分での避難道路の整備

避難場所や避難路を検証する

防潮堤の新設

防潮堤の嵩上げ

宮古湾

道路整備

凡例

- 非可住地
- 構造規制等条件付可住地
- 可住地
- 移転候補地
- 避難場所 (代表的な箇所のみ表記)
- 津波避難ビル等
- 防潮堤

高浜小学校

0 100 200 400 600 800 1000m

ア イ

案Bの断面イメージ

住宅 市道 住宅 国道 防潮堤

特徴	<ul style="list-style-type: none"> 2線堤兼用道路の整備により、可住地の浸水のリスクがより減少する。 非可住地内の住宅は、高台等への移転が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 構造規制を受けるが、多くの方が現地で再建できる。 非可住地内の住宅は、高台等への移転が必要となる。
----	--	--

※1 概ね数十年から百数十年に一度程度で発生すると想定される津波 ※2 今回と同様の津波 ※3 今後、起こりえる最大クラスの津波により予想される浸水の深さ

復興パターン案

イメージ図